

報告書の提出に当たって

食物アレルギーのある11歳の女の子が調布市立小学校の給食で命を失いました。

調布市食物アレルギー事故再発防止検討委員会は、彼女の尊い命を無駄にせず、アレルギーのある多くの子どもやその保護者の安心につながるような確実な施策を作り上げるべく、事故の再発防止を検討してきました。

本報告書は、事故事例の検証から、いくつもの具体的な対策を提案しています。事故原因の背景等から、ヒューマンエラーの背後にある組織的な課題についても改善策を提案しています。また、エピペン®を打つことについても、議論を重ね、子どもの命を守るため、「調布市教育委員会が全面的に責任を持つこと」としました。

平成20年3月に学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）に基づく管理指導と文部科学省監修のガイドラインに則るという取組が示されて、5年が経過しました。調布市での事故は、凶らずも文部科学省、東京都をはじめとした多くの自治体で、食物アレルギー対応の見直しの契機となり、全国各地で真剣な議論を沸き起こしています。本報告が、調布市のみならず、全国食物アレルギーに関する取組の一助となればと思います。

一方、各地で事故防止に向けた前向きな取組が広がる中、食物アレルギーに対応した給食に消極的な姿勢が見え始めたとのお話も耳にします。調布市教育委員会は、食物アレルギーのある児童・生徒が他の児童・生徒と同じように給食を楽しめることを目指し、今後も、ひるむことなく食物アレルギー対応の給食を堅持し、事故の再発防止に努めることとしております（資料1）。

調布市教育委員会には、事故を起こしたことの重大さを十分反省するとともに、二度と同様な事故を起こさないことが、一生懸命に明るくやさしく生きてきた女の子の思いに応えることとなることをしっかり肝に銘じ、全国の手本となるよう再発防止に努めてもらいたいと考えています。

本検討会では、学校給食に的を絞って検討してきましたが、調布市においては、検討会の立ち上げ時に意図したとおり、全市民を視野に地域社会としての対応能力の向上を目指していただきたい。また、市民への啓発活動、乳幼児期からの食物アレルギー対応、調布市医師会との連携などに力を注いでいただき、バランスのとれた施策として展開されることを望みます。

終わりに、検討会委員及び部会委員の皆様方の事故の再発防止に向けた熱い思いと多大なる御協力に感謝申し上げます。

平成25年7月23日

調布市食物アレルギー事故再発防止検討委員会
会長 塚越 博道